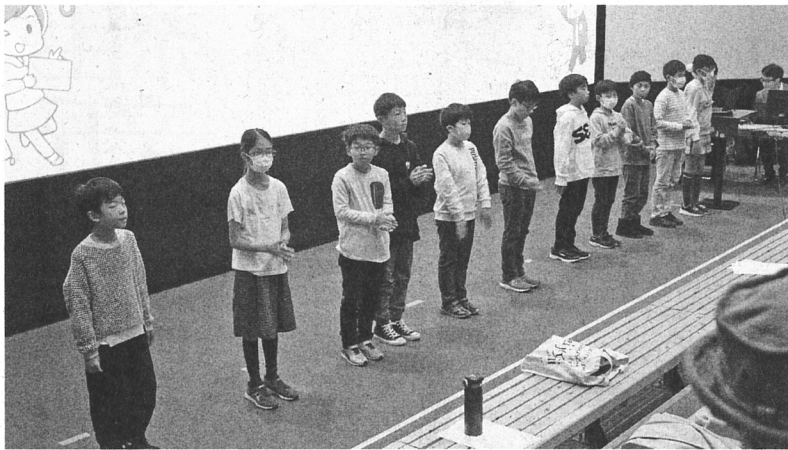


ゲームで解決、創造爆発

奈良「小学生プログラミング大会」県大会



最終審査に臨む10組の児童たち＝23日、奈良市二条大路南4丁目の天平みはらし館VRシアター

小保田さん（伏見南小5年）が最優秀賞

「2023年度全国選抜小学生プログラミング大会」の県大会（奈良新聞社主催、奈良工業高等専門学校共催、県教育委員会・奈良教育大学・平城京魅力創造プロジェクト市など後援）が23日、奈良市二条大路南4丁目の県営平城宮跡歴史公園内、天平みはらし館VRシアターで開かれ、

最終審査に進出した小学生10組が自作品のプレゼンテーションを行った。最優秀賞に、同市立伏見南小5年、小保田佳歩さんの作品「食品ロスリサーチ」が選ばれた。小保田さんは来年3月に東京で開かれる全国大会に、県代表として出場する。

同大会は全国新聞社事業

協議会が2020年度から実施し、県大会は昨年度から始まり今年で2回目。対象者は、県内の小学校および義務教育学校が県在住の児童。36組からコンピュータープログラミングを用いて作ったソフトウェア作品が応募され、1次審査を通過した10組が最終審査に臨んだ。

作品のテーマは「みんなのみらい」。ごみ問題や地球温暖化など身近な問題を意識し、ゲームで問題を解決する作品が多く、作者の思いが詰まった創造力豊かな作品ばかりが発表された。作者は作品を考えたいきっかけや、工夫した点などを説明し、スライドでゲーム内容を紹介した。

最優秀賞に選ばれた小保田さんの作品は、食品ロスのクイズや寄付などのアイデアと、変数やクローンなどをを使ったゲームとしての仕組みが評価された。

大会審査委員長の小崎誠二・奈良教育大学客員准教授は「子どもの視点で作られ、大人が考える社会問題より純粋に問題を解決する

気持ちにあふれた内容ばかり」と語った。

最優秀賞以外の入賞者は次の通り。（敬称略）

優秀賞Ⅱ久合田悠人（広陵町立真美ヶ丘第二小5年）「大和郡山市で金魚を育てよう」▽畠山拓巳（宇陀市立榛原西小6年）「100年後の世界」